

# ひとのちから CLOSE \* UP



歌手  
エムジェーケー  
MJKプロジェクト事務局

## 原えいじさん

はら・えいじ 昭和38年生まれ、新生西在住。飲食店組合事務局やあらお荒炎祭運営委員他、名刺に書ききれない程の肩書きがあるそう。「気がつけば、地元のことばかりやっています（笑）」

荒尾市のご当地アイドル・MJKが誕生！。今や市内外でも活躍している彼女たちを支える生みの親、それが原えいじさんです。昨年、文化センターの主催で行われた創作ステージ「宮崎滔天と孫文」では宮崎滔天役を好演。そのとき役作りで蓄えたひげが、いつしかトレードマークになりました。

現在MJKプロジェクト事務局としてプロデュースも行う原さんですが、本業は歌手。今年でデビュー25年になります。

歌が好きで、長く荒尾市民合唱団※に所属していたという原さんは、出場したカラオケ大会で、審査員だった船津広幸さんに出会い、歌手の道に進みました。船津さんの師匠で北島三郎さんのバンドマスターだった鈴木操さんの曲で、昭和63年にデビューしました。

大牟田市にミュージックパブを開店したのが20年前。荒尾に店舗を移し、今年で13年になるそうです。MJK結成のいきさつを

聞くと、「実は『ご当地ものを何かやらないか』と知り合いに声を掛けられたんです。音楽なら自分の得意分野だからね」と笑顔で話します。荒尾を盛り上げたいという思いを、やる気いっぱいMJKに託しました。

「反応が良くて、とにかく土日はMJKで忙しい！」と、うれしい悲鳴。固定ファンもつきつつあるMJKは、荒尾をさらにPRしようと、さらなるステップアップのために日々努力を重ねているそうです。

原さんの夢をたずねると、「自分の歌もPRしたいね」とほほ笑みます。原さんは宮崎滔天を歌った『宇宙の暦』や、市の観光大使・嘉門達夫さんと歌う万田坑がテーマの『風が吹いている』など、荒尾に材を取る歌も持っています。

MJKのはつらつとした歌声と、原さんの重厚な深みのある歌声が重なり、荒尾の魅力を乗せて日本中に響き渡る——そんな日はきっと、遠くありません。

※現在の混声合唱団 ARAO